



かもめ便り

記事紹介

理事長新年のご挨拶	— 1面
院長新年のご挨拶	— 2面
給食だより	— 2面
クリスマス会	— 3面
配食サービス	— 3面
島田島ハーフマラソン	— 3面
Dr.'sエッセイ	— 4面

社会福祉法人 小渦会 鳴門シーガル病院 理事長 高橋 徹
 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 TEL. 088-688-0011 (代)

【ホームページ】 <http://k-seagull.jp/>

シーガル病院

検索



皆さん、平成最後の年の幕開け、おめでとうございます。

今年は、私たちの暮らしを取り巻く環境が大きく変わります。

まず、4月には、新しい「元号」が公表されます。初夏には、改築になった「徳島シーガルクリニック」がオープンする予定です。10月から消費税が10%にアップされます。

喫煙家には朗報ですが、愛煙家にとっては悲報です。「健康増進法」が改正され、病院内での全面禁煙などが7月から実施される予定です。

私たち人間を含めて

「生き物」は、太古の昔から「環境の変化」には変化に慣れることや変化に合わせることで対応してきました。そうした意味で、今年、私たちも、変化を恐れず、昨日よりも今日、今日よりも明日、と少しずつでも進化していけるよう様々なことにチャレンジしましょう。

特に、当法人としては、創立百周年に向けて、障害者の福祉の向上に携わる「社会福祉法人」として、障害者の皆さんが、「自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する」ため、今後、「就労支援」や「相談支援」、「自立生活の援助」などの機能を充実していくかなければならない、と考えています。

そうした一環として、昨年は、病院に「包括ケア推進室」を設置しました。今年も、一歩進化した取り組みを進めていかなければならないと思っております。

当法人の患者さん・利用者の方々に、環境の変化への深いご理解とご協力を。そして、職員の方々に、これまで以上の労苦をお願いいたします。先頭に立って「変化への対応」と「思いやりの心」・「柔らかい心」を常に忘れないよう取り組んで参ります。

今年も、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。



社会福祉法人小渦会
理事長 高橋 徹



新年のご挨拶

院長新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

さっそくネットで調べましたところ、2019年の干支は己亥（つちのとい）に当り、内なる充実を図り、次のステージの準備をする年だそうです。組織でいうと、人材教育や設備投資がこれにあたると思われます。

今年の法人の大きな事業である、徳島シーガルクリニックの改築はまさにぴったりと当てはまります。1階をデイケア、2階を診療部門とし、患者さんのプライバシーにも配慮したモダンなイメージのクリニックとなる予定です。建物だけでなく、今年は「人のためにベストを尽くそう」を職員のモットーに掲げて、

より質の高いサービスを提供できるよう努力したいと思っています。

皆さんご存知のように、今年は5月1日より元号が変わります。平成の時代を思い起こすとバブルの崩壊、不況、グローバリズムによる弱肉強食、世界的な異常気象、震災と、負のイメージが多かった気がします。少子高齢化など大きな課題はありますが、次の時代は、皆が夢や希望を持って生活できる、優しい時代になればいいなと心から願っています。

プライベートでは1年半の禁煙により、体重が7kg増加し、

かなりの危機感を抱いていますが、でも、どこに移動しても、まずは喫煙場所の探索行動、から解放されたのは何より嬉しいです。

ニコチンよ、さらば！

どうか本年もよろしく願い申し上げます。



鳴門シーガル病院

院長 福永 明広



給食だより

明けましておめでとうございます。

給食では、季節ごとに行事食を提供しています。年末には、毎年恒例となっている年越しそば、年末のおやつ。年始には、おせち料理を提供しました。

これからも皆様に季節を感じてもらえる、喜んでいただける行事献立を提供していきたいと考えています。

今年もよろしく願いいたします。

ふき

「富貴」ととれることから、豊かな生活が送れるように、との願いが込められている。

かまぼこ

「初日の出のような形で縁起が良い。赤は魔除け・白は清浄で祝の色で縁起が良い。

栗きんとん

黄金色に輝く財宝にたとえて、豊かな1年を願う料理。

昆布巻

「喜ぶ」の言葉にかけて、正月の鏡飾りにも用いられている一家発展の縁起もの。

伊達巻

「伊達」は華やかさを表す言葉。巻物に似ていることから、文化の発展や学問の成就を願う食べ物。



イベント

クリスマス会 ・ 配食サービス ・ 島田島ハーフマラソン

平成30年12月20日にクリスマス会を開催しました。綺麗なオーナメントのツリーで飾り付けられた会場は、クリスマスの雰囲気がいっぱいでした。

前回のクリスマス会から規模を拡大して開催しておりますが、今回のクリスマス会も、昨年を上回るたくさんのお出し物が開催されました。

患者さんや職員のカラオケ大会、ジャグリング、二人羽織、合唱など、どの出し物も大変盛り上がり、今回のクリスマス会も大盛況でした。



～ 配食サービス ～

平成30年12月は、8日に鳴門市瀬戸町の明神地区に、18日に同じく瀬戸町の堂浦地区に配食サービスを行いました。

年に数回、堂浦地区と明神地区にお住いの高齢者の方を対象に、お弁当をお配りしております。

今後も、直接お声掛けしてご様子を伺いながら、お届けできるよう、配食サービスを続けていきます。



～ 島田島ハーフマラソン ～

平成30年10月28日に病院の近所を走る「第2回なると島田島ハーフマラソン(21km)」に参加してきました。

エントリー数は約1,400人。高低差が最大で135mになるアップダウンの激しいコース設定でした。

吉本のお笑い芸人さん(間寛平さん、石田靖さん、トミーズさん 他)が来ており、笑いや熱い声援を送りランナーを応援していました。

大変厳しいコースではありましたが、当日は天気が良く、島田島の景色に癒やされながら無事に完走することができました。





Dr'sエッセイ

塞翁が舟

以前、鳴門市で開かれた女優の高畑淳子さんの講演会に行った。息子さんのことが世間で話題になる前の時代である。高畑さんは善通寺市の出身で高松高校卒業後に複数の有名大学に合格しながら、演劇を学びたいという気持ちから都内の短大に進学。舞台人として女優人生のスタートを切った。ご両親がその後も高松に住まわっていた関係もあり、たびたび東京と高松を往復していたことを話された。

筆者は高松の対岸の町、玉野市宇野で育ち、何度も宇高連絡船を利用したことがある。岡山発の急行列車が宇野駅に着いた瞬間、大勢の乗客が連絡船へと乗り込み、船の甲板ではこれまた大勢の人が瀬戸内の多島美を見ながら讃岐うどんをすする光景が風物詩になっていた。そして船が高松港に入港すると四国の各方面に向かう列車に乗り込むため、人々が足早に連絡橋の上を急ぐ姿を今でもはっきりと覚えている。

まさに「津軽海峡冬景色」の歌詞に通じる光景であった。

「高畑さんもそういう中のひとりだったのだろう。」と感じ、たくさんの聴衆の中で気恥しい思いはしたが、思い切って手を挙げて「東京へは連絡船で行かれたと思いますか。」との質問を投げかけてみた。驚いたことにその直後、高畑さんが涙ぐんだのである。それはもちろん演技などではなく、自然な心の発露であったであろう。走馬灯のように過去のいろいろな思い出が一瞬にして脳裏を駆け巡ったのだと感じた。ハンカチで目をぬぐった後、彼女は天井を見上げながら「おうどん・・・おいしかったですよね。」とポツリとその一言を述べた。

夢と希望を胸に上京する時、最初に乗るのは連絡船であり、都会で夢破れて懐かしい故郷の風景に出会うのも連絡船の上であった。

筆者自身も連絡船に強い郷愁を感じるが、おそらく彼女も強烈なノスタルジアをそこに感じるのであろう。互いの感性と波長が情動の変化を引き起こし、大女優の心さえ一瞬で動かしてしまうのである。

我々の仕事とは各々の患者さんに対してそのようなフレーズを協力して見つけ出すことかもしれない。逆に今の我が身を振り返れば船で通勤する生活にどっぷりと浸かっている。その船の中で考えた「人生万事塞翁が馬」ならぬ「塞翁が舟」という言葉は、小舟が大きな波に翻弄されるかの如くの今までの人生を象徴しているので少々気に入っている次第である。

医師 澤田和之



【編集後記】

かもめ便りの新年号が完成しました。理事長ならびに院長からのご挨拶を中心に編集しています。2019年もどうぞよろしく願いいたします。

次号（『かもめ便り』第18号）は、2019年5月に発行の予定です。

広報委員会

社会福祉法人 小湊会URL



鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)

- 直営渡船利用 (所要時間2分)

◎渡船(無料)運航時間

午前7時30分から午後5時15分まで

定時運航(10分～30分間隔)しています。

TEL.088-688-0011(代)

